

# 福祉文教委員会

## 視察報告

平成30年7月25日から27日にかけて、行政視察を行いました。

### コミュニティ・スクールについて (山口県下関市)

#### ◎概要

平成23年度に推進構想を策定。29年度までに市立の小学校49校、中学校22校、高校1校の72校にコミュニティ・スクール(用語解説)を導入している。

#### 【導入の経緯】

子どもや学校を巡る環境が時代とともに大

きく変化し、学校だけでは対応できない状況の中、家庭や地域との関わり方を再生し、新たな課題にもみんなに対応できる協働の態勢(身・心構え)をつくり、目指す子ども像や学校教育目標等を共有した「地域とともにある学校」を創りたいという願いのもと、コミュニティ・スクールを立ち上げた。

#### 【具体的取り組み】

学校運営協議会の設置、学校応援団の組織化、小中学校の連携、地域と学校を結ぶコーディネートターの設置。学校運営協議会においては、自分たちが当事者として、自分たちの力で学校や地域を創り上げていくという意識の醸成を第一に、熟議(熟慮と議論)に重きを置いている。保護者・地域住民・教職員・児童生徒といった関係者が課題解決に向け、知恵やアイデアを出し合い、具体的な実践

に繋がっている。

#### 【主な成果(魅力)】

○子どもにとって  
・ 地域社会と関わりにより学びや体験活動が充実し、多くの大人達に見守られることで自己肯定感の育成や地域の担い手としての自覚の高まりに繋がっている。

#### ○学校にとって

・ 地域の理解と協力を得た学校運営ができる。  
・ 導入当初は多忙感を感じる教員もいたが、取り組みが進むにつれてコーディネートターの活動や教育効果の実感などにより多忙感の軽減に繋がっている。

#### ○家庭にとって

・ 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感を持っている。  
○地域にとって  
・ 経験を活かすことで、生きがいや自己有用感が持てる。  
・ 学校を中心としたネットワークが形成され地域の活性化に寄与している。

#### 【今後の取り組み】

子どもが地域を意識する仕掛けづくり、教職員への研修、情報発信の工夫などによってより多くの方の参画意識の醸成を図り、地域や学校の実態に合わせた特色ある取り組みを充実させていく。

#### ◎考察

子どもも学校も家庭も地域もコミュニティ・スクールを核とした相互の関係に大きな効果もたらされており、本市においても、早期に推進すべきと考える。関係者の理解のもと進められるよう、目的やプロセスを共有し丁寧に取り組みられることを期待する。



下関市にて

### ひとが育つまち益田 創生プロジェクト について (島根県益田市)

益田市では、若者が定着したくなるような魅力的な地域づくりを目指し、行政、学校、企業などの関係者がオール益田となって未来の担い手を育成する取り組みをしている。

益田版カタリ場は、親や教師以外の人生の先輩に自分の思いを明かし、将来について考えてもらうライフキャリア教育の一環として行われているもので、小中高の児童・生徒が先輩や大人と向き合い率直に語り合うことで、地域への想いが深くなってきたという。本市と同様に、益田市でも若者が地元を離れて市外・県外へ流出する人口流出が続いており、カタリ場という種蒔きのような取り組みの積み重ねが、一度外に出たとしても将来益田を選ぶことに繋が

### 健康維新のまちプロ ジェクトについて (山口県秋田市)

るとして期待している。地域の大人がなぜここで生きているのかという人生観や仕事への誇り、地域の魅力を堂々と語ることで、地域の人づくりに繋がると認識を新たにしたい。

健康寿命の延伸を目指し、健康づくりの意識を浸透させ、誰もが健康を実感できるまちにするため、あらゆる分野の市の部署が横断的に連携しプロジェクトを実施している。これまで健康とは無関係と思われていた既存事業に、健康づくりの視点を付け加え協働で推進される仕組みを構築している。地元企業との節塩弁当の開発・販売や高校生制作の背伸ばしベンチの設置等、民間・市民を巻き込む活動に発展しており参考にすべき手法と考える。